

しょうがっこうをおくる会様

Plan Japan

プラン特別プロジェクト
グアテマラにおける教育支援プロジェクト
提案書



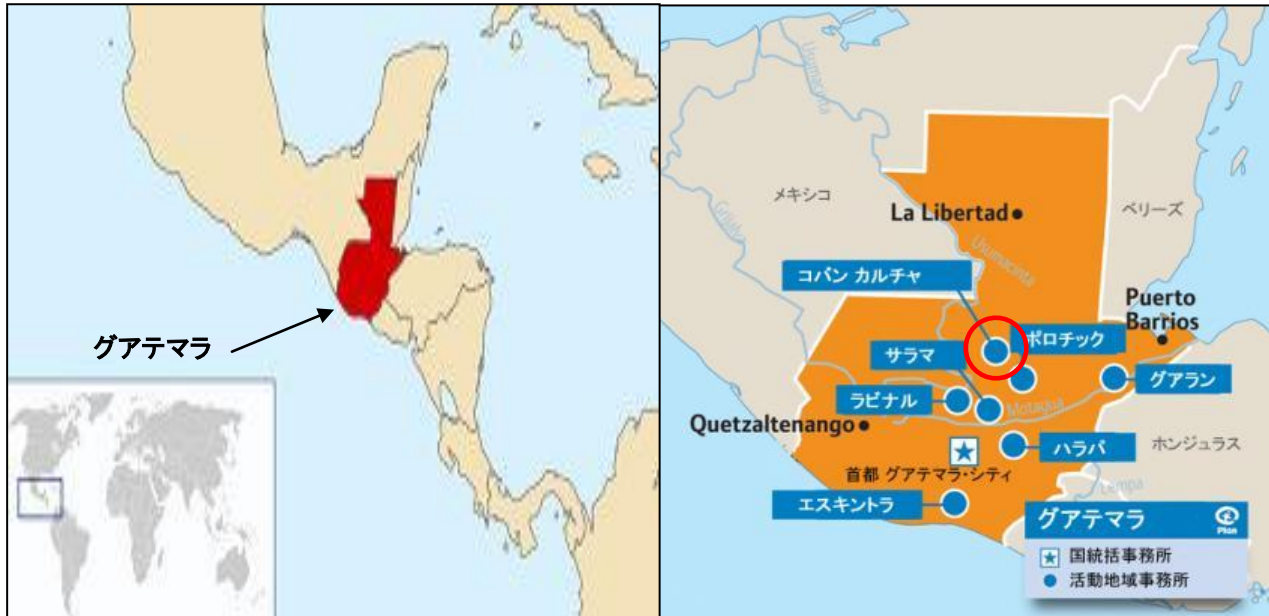
グアテマラの子どもたち

公益財団法人プラン・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル11F
www.plan-japan.org

ファンドレイジング部 平田 泉
TEL: 03-5481-7100 / FAX: 03-5481-6200
Email: hirata@plan-japan.org

このプロジェクトは、グアテマラ、コバン カルチャ活動地域で実施を予定しております。



	グアテマラ	日本
人口	1,546 万人	12,725 万人
5 歳未満児死亡率(1,000 人当たり)	31 人	3 人
改善された水源を利用する人の比率(%)	94	100
1 人当たりの GNI*(国民総所得)(米ドル)	3,340	47,870
1 日 1.25 米ドル未満で暮らす人の比率(%)	14	—
小学校の就学率(%)	95	100
小学校に入学した生徒が最終学年まで残る率(%)	—	—

「ユニセフ世界子供白書 2015」より

■ プロジェクトの背景

プランは、グアテマラで 1978 年に活動を開始して以来、教育、保健、住環境の改善、住民の収入増加など多岐にわたる分野で、住民参加型の地域開発活動に取り組んでいます。

グアテマラは、中南米諸国の中でもとりわけ国内総生産(GDP)に対する税率の低さに長年悩まされている国です。逼迫した財政のあおりを受け、2009 年度の教育予算は GDP の 2.38%と、中南米諸国平均の 4%を大きく下回りました。2012 年 1 月に就任したペレス・モリーナ大統領は、財政基盤強化に努めるほか、就任直後に新設した社会開発省を通じて、貧困世帯の児童の教育や保健サービスへのアクセス向上に取り組んでいます。しかしながら、進展は緩やかであり、依然として慢性的な教育施設の不足が問題となっています。

貧困世帯の中でも、特に社会的な差別を受けている先住民族の人々は、教育を受ける機会を得るのが困難な状態です。現在、読み書きできない人々の6割は先住民族によって占められています。また、先住民族の子どもたちの23%が学校に通っておらず、女子に限って言えば、小学校を卒業できるのは43%、さらに中等学校への進学となるとこの数字は5.8%まで減少します。

一方、通学している子どもたちも、栄養不良状態による集中力の欠如、農繁期の常習的な欠席、学校の基本的な設備の不備などの理由により、学業成績が伸び悩んでいる状態です。さらに、先住民族固有の言語と公用語(スペイン語)による二言語教育を実施している学校は、わずか22%に過ぎず、子どもたちの学習理解の促進がままなりません。

このプロジェクトの実施を予定しているグアテマラ北中部、アルタ・ベラパス県サン・ペドロ・カルチャ市カムパー コミュニティは、市の中心部から51キロメートルの距離にあり、主にマヤ系先住民族の人々3,240人(男性1,621人、女性1,619人)が暮らしています。同コミュニティには、幼稚園から小学校6年生までの児童541人(男子298人、女子243人)が通う学校があり、児童たちは教師21人と学校長1人のもとで学んでいます。同校に備わっている教室19室のうち、13室は良好な状態ですが、残る6室に関しては、コンクリート床と木製の壁、扉の劣化が進み雨季には雨漏りが発生してしまうため、授業を行うのが困難な状態です。

教室の不備が原因で、途中で学校を辞めてしまったり、入学を希望しない子どもたちが少なくないため、教育省の基準を満たした教室の建設が急務とされています。

学校の現状

担任教師	学年	男子	女子	合計	1教室内の児童数	教室数
ギマール イカロ	1年生(A組)	15	18	33	33	1
サイダ マリエラ	1年生(B組)	14	19	33	33	1
ザイラ ビビアナ	1年生(C組)	15	20	35	35	1
レリー ソベイダ	2年生(A組)	17	15	32	32	1
シルビア エステラ	2年生(B組)	17	15	32	32	1
デビッド エンジェル	2年生(C組)	17	14	31	31	1
カレン エバンリー	3年生(A組)	13	12	25	25	1
ノーマ アズセラ	3年生(B組)	7	17	24	24	1

ゴンザロ ラファエル	3年生(C組)	15	10	25	25	1
ノーマ レティシア	4年生(A組)	24	8	32	32	1
マルセラ スザンナ	4年生(B組)	25	8	33	33	1
シルビア ギレミナ	5年生(A組)	24	13	37	37	1
ジョセフィーナ チョク	5年生(B組)	17	16	33	33	1
オウラ レティシア	6年生(A組)	18	11	29	29	1
ベルサ ルース	6年生(B組)	19	9	28	28	1
サンドリー マレニー	始動教育*(0歳~3歳)	13	10	23	23	1
ミグダリア アズセナ	就学前教育(4歳)	4	4	8	21	1
マルタ オレリナ	就学前教育(5歳)	7	6	13		
カルロス チョク	就学前教育(6歳)	8	10	18	18	1
エドウィン ヘリベルト	コンピュータ授業	9	8	17	17	1
エストラド フェデリコ (体育担当)	—	—	—	—	—	—
ペドロ アイヴィス (校長)	—	—	—	—	—	—
合計		298	243	541	541	19



良好な状態の教室



劣化が著しく、授業を実施するのが難しい状態の教室

* 政令において定められているグアテマラの学校制度は0歳より始まり、始動教育:0歳から3歳、就学前教育:4歳から6歳、初等教育:7歳から12歳、中等前期:12歳から15歳、中等後期:16歳から17歳、もしくは18歳(課程による)、高等教育:3年間(専門学校課程)もしくは6年間(学位課程)です。

■ プロジェクトの概要

本プロジェクトは、カムパー コミュニティの小学校に、普通教室としても利用できる多目的教室 1 棟と 3 基を備えたトイレ棟を建設することで、同校に通う子どもたちに適切な学習環境を提供します。

■ 対象

新設する教室を使用する予定のカムパー コミュニティの小学 1 年生(3 クラス)の児童 101 人(担任教師 3 人)を含む全校児童 541 人

■ プロジェクト実施期間

約 6 ヶ月 良好な状態の教室
(天候などの現地事情によって活動期間が前後する場合があります)

■ プロジェクト目標

カムパー コミュニティの小学校の教室の増設、および衛生設備の設置による学習環境の改善を通じて、子どもたちへ質の高い教育を提供し、子どもたちが持つ教育を受ける権利を実現すること。また、学習環境の改善によって、就学率や修了率を向上させること。

■ 活動

- 多目的教室 1 棟の建設
大きな 1 教室を間仕切りで分割できるようになっている多目的教室 1 棟(6.31 × 23.20 メートル)を 1 年生用の教室として建設します。
- トイレ 3 基(女子用 1 基、男子用 1 基、大人用 1 基)を備えたトイレ棟 1 棟の建設

なお、活動地域、内容は現時点での予定です。プロジェクト実施地域の事情などで、活動内容が変更になる場合があります。その場合は、速やかにご報告いたします。予めご了承ください。

■ 期待される成果

■ 効果

このプロジェクトの実施により、現在この学校に通う 541 人の子どもたちが、衛生的で快適な教育環境で学べるようになることで、通学意欲が向上し、地域の就学率の向上および中途退学率の減少が期待できます。さらに長期的には、より多くの子どもたちが十分な知識を得て成長することに

より、地域全体が貧困から少しずつ脱却していくことに貢献します。

このプロジェクトの実現は、MDGs(国連ミレニアム開発目標)[†] 目標2:初等教育の完全普及の達成に貢献します。

■ 持続性

完成した多目的教室は、プロジェクト完了後は同校の教師、保護者、地域の人々によって維持管理されます。適切な維持管理を行えるよう、プランはこれら関係者に対して意識啓発とトレーニングを実施します。また、教育省からは教師の給与が支払われ、保護者会を通じて学用品や給食の支給が実施されることも約束されています。

■ プロジェクトの実施方法

プランが行うプロジェクトは、住民参加型です。教師や、児童・生徒の保護者をはじめとする地域の人々は、計画立案から、実施、進捗管理、評価などプロジェクトのすべての段階に関わり、プロジェクトを中心となって進める役割を担います。地域の人々が計画段階から参加することによって、プロジェクトが自分たちのものであるという意識が強まり、プロジェクト完了後も地域の人々によってこの施設が効果的に運営され、プロジェクトによる成果が継続していく体制が出来上がります。プランは、地域の人々がプロジェクトを管理運営するために必要なノウハウの講習や、専門家による保健・医療・教育など各分野での専門的能力向上トレーニングなどを並行して行うことで側面から全体を支えます。

■ プロジェクトの予算

このプロジェクトの予算は 400 万円で、内訳は以下の通りです。

活動内容	予算(円)
1年生用の多目的教室の建設	2,928,293
トイレの設置	469,224
現地でのプロジェクト管理費	231,788
プログラム管理費	370,695
合 計	4,000,000

[†] 2000年国連で採択された「国連ミレニアム宣言」の一部で、世界共通の問題に地球規模で取り組むため、2015年までに達成すべき目標として設定されました。全8項目には極度の貧困と飢餓の撲滅、初等教育の完全普及などが含まれており、プランの目標(Vision)や使命(Mission)と重なります。プランもMDGsに呼応した形で活動を続けています。

※活動は現地通貨を用いて実施します。円に対する為替差益や差損が生じる場合があることを予めご了承ください。

為替の変動により、現地通貨予算が現地通貨に換算したご寄付額を上回った場合、グアテマラでの活動を統括するプラン・グアテマラが差額を年間予算より拠出してプロジェクトを完了させます。現地通貨予算が下回った場合には、原則として差額分はこのプロジェクトに関連する活動に充てさせていただきます。

■ プロジェクト成果のご報告

プロジェクト完了後、報告書を作成し、写真を添えてご報告いたします。

■ 記念プレート

完成した施設には、ご指定のお名前などを入れたプレートをお付けしております。
ご希望の場合は、お気軽にお申し出ください。